

先天性胆道閉鎖症術後上行性胆管炎

—閉鎖症の病型別にみた合併頻度と予後について—

国立小児病院消化器科 小林 昭 夫

先天性胆道閉鎖症の術後上行性胆管炎は、本症の予後に重大な影響を及ぼすことから、本症治療上の重要な問題の1つである。われわれは、これまでに本合併症の臨床像および予後につき報告してきた¹⁾が、今回は先天性胆道閉鎖症の新病型分類別の上行性胆管炎の合併頻度および予後につき検討した。

対象は昭和43年4月より昭和53年9月までの間に国立小児病院消化器科に入院した168例である。

胆道閉鎖症の病型分類は葛西らによる新分類法⁵⁾によった。

1) 基本病型分類別の上行性胆管炎の合併頻度と予後 (表1)

表1に示すごとく、I型(総胆管閉塞)cystでの合併頻度が少ないが、他の病型間には有意の差はみられなかった。

予後は、この表より明らかなように、上行性胆管炎の合併が直接影響しており、したがって、I型cystでの成績が他の型のそれより良好であった。

2) 肝門部病型分類別の上行性胆管炎の合併頻度と予後 (表2)

上行性胆管炎の合併は γ (bile lake)で高く、また予後も不良であった。上行性胆管炎ならびに予後が、他の病型よりやや良いと思われたのは α (拡張肝管)であった。

3) 下部胆管病型分類別の上行性胆管炎の合併頻度と予後 (表3)

上行性胆管炎の合併頻度は b_1 (開存または索状肝管)に少い傾向がみられた。予後はこれを反映している。

文 献

1. 小林昭夫, 他: 先天性胆道閉鎖症の治療, とくに上行性胆管炎について, 小児科診療 36: 1302-1308, 1973.
2. Kobayashi, A., et al.: Ascending cholangitis after successful surgical repair of biliary atresia. Arch. Dis. Child. 48: 697-703, 1973.
3. Kobayashi, A., et al.: Congenital biliary atresia. Analysis of 97 cases with reference to prognosis after hepatic portoenterostomy. Amer. J. Child.

130: 830-833, 1976.

4. 小林昭夫: 先天性胆道閉鎖症術後上行性胆管炎の診断—発病初期の臨床像の検討. 小児慢性疾患(臓器系)に関する研究(研究報告書)昭和52年度, p. 143-144, 1978.
5. 葛西森夫, 他: 先天性胆道閉塞(鎖)症の新分類法試案, 日本小児外科学会雑誌 12: 327-331, 1976.

表1 基本病型分類別の上行性胆管炎の合併頻度と予後

基本病型	I	Icyr	II	IIcyr	III	計
症 例 数	9	10	9	1	136	168
黄疸消失例	1	6	5	0	40	52
上行性胆管炎合併あり	1	2	4	0	24	31
合併なし	0	4	1	0	16	21
予 健在	0	4	1	0	16	21
生死	0	0	2	0	13	15
死亡	1	2	2	0	11	16

*生存: 上行性胆管炎を反復しているもの, ないし上行性胆管炎後に黄疸が出現し持続しているものをさす。

表2 肝門部病型分類別の上行性胆管炎の合併頻度と予後

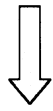
肝門部病型	α	β	γ	m	n	o	計
症 例 数	9	15	15	60	22	38	159
黄疸消失例	4	6	3	14	13	9	49
上行性胆管炎合併あり	2	4	3	8	8	5	30
合併なし	2	2	0	6	5	4	19
予 健在	2	2	0	6	5	4	19
生死	1	2	0	5	4	3	15
死亡	1	2	3	3	4	2	15

*表1に同じ

表3 下部胆管病型分類別の上行性胆管炎の合併頻度と予後

下部胆管病型	a_1	a_2	b_1	b_2	c_1	c_2	d	計
症 例 数	15	14	49	6	23	28	2	137
黄疸消失例	4	3	22	1	8	10	1	49
上行性胆管炎合併あり	3	2	11	0	6	7	1	30
合併なし	1	1	11	1	2	3	0	19
予 健在	1	1	11	1	2	3	0	19
生死	2	1	5	0	2	4	1	15
死亡	1	1	6	0	4	3	0	15

*表1に同じ



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



先天性胆道閉鎖症の術後上行性胆管炎は、本症の予後に重大な影響を及ぼすことから、本症治療上の重要な問題の1つである。われわれは、これまでに本合併症の臨床像および予後につき報告してきた(1-4)が、今回ほ先天性胆道閉鎖症の新病型分類別の上行性胆管炎の合併頻度および予後につき検討した。